

銅・アルミレポート

橋本アルミ株式会社取締役

橋本 健一郎



9月のアルミ概況および10月の見通し(4)

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比微増、5万9,914 t、11カ月連続プラス。
出荷は+1.8%、6万2,865 t、11カ月連続プラス。

【輸出】

アルミ新地金が前年比+21%の99 t。二次合金が-25.6%の1,199 t。スクラップが-128%の6,185 t。アルミ缶が+17.3%の5,687 t。

【輸入】

アルミ新地金が前年比-14.8%の12万5,231 t。二次合金が+4%の10万8,036 t。スクラップが+119.5%の1,282 t。合金スクラップが-13.3%の3,249 t。

【見通し】

・自動車は生産が-2%。国内販売台数が前年比-3.1%。生産、販売とも2カ月連続マイナス。販売のマイナス幅が拡大しておりこれが続くかどうか今後に注目。
・住宅着工の動向については、前年同月比+1.6%と3か月ぶりプラス。今後プラス傾向が続くのか今後の動向に注目。

・アルミ圧延・押出品生産数

板類・押出生産合計は前年比-6.6% 8カ月連続マイナス。板類、8万6,222 t ▲8.6%、8ヶ月連続でマイナス、押出類、5万8,856 t ▲3.6%、3ヶ月連続でマイナス。

今後更にマイナスが続くかの動向に注目。

【アルミニウム2次合金、同合金地金等生産実績】

前年比微増、5万9,914 t、11カ月連続プラス。出荷は+1.8%、6万2,865 t、11カ月連続プラス。今後更に

プラスが続くか、動向に注目。

・アルミ輸出は前月に続き地金はアメリカの輸入規制に伴う地金高思惑を受けて増加、二次合金、スクラップは内需用途から減少。アルミ缶は猛暑による大量発生 of 荷余り感から増加。

・アルミ輸入は円安から地金は減少、2次合金、スクラップは中国塊の割安感から増加。合金系は減少。

【スクラップ景況予想】

流通在庫は相変わらず中国塊の下落を受けてスクラップも連れて下落しており、売り玉が多いものの買い手は少なく飽和状態。需要面に関しては前月に続き自動車の販売が低迷していること、輸入地金の下落、関西地方の大型台風による一部メーカーの荷受け停止を受けて荷余り状態になるのではないかと？

【LME・為替予想】

今月は米中貿易戦争とLMEアルミ在庫の動向に左右される。

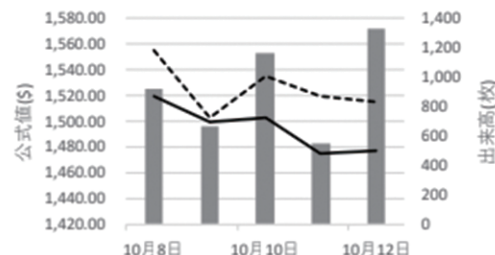
米中貿易戦争に関しては2,000億ドル相当の中国製輸入製品に対して25%の上乗せ関税を課す予定を10%に減少させ、中国高官との交渉を検討するなどの譲歩はあったが結果交渉は流れ、また追加関税に言及している事から治まる気配はないのではないかと？

LME在庫に関しては長い間壁であった100万tは切ったもののルサル制裁の実施デッドラインを10月23日から11月12日に延長することを米国が決定したこと、西オーストラリア・アルコアのアルミナ精製所のほぼ2か月にわたるストが解決したことからの順調に減少しないのではないかと？これらを踏まえた9月アルミ銅価格は、米中貿易戦争で緩和に向かう何かしらの話し合いや政策が出て、アルミ在庫が順調に減少した場合2,200ドル付近。両条件が揃わなかった場合2,000ドル付近まで下落するとの予想。

ドル円値は111円~114円(TTM)台を予測。

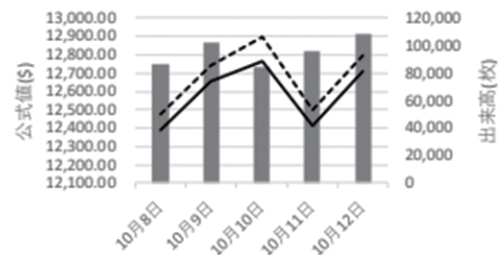
スクラップ購買価格に関しては0~+5円程度と予測している。

LME北米特殊アルミ合金



■ 出来高 ■ 直物 - - - 先物

LMEニッケル



■ 出来高 ■ 直物 - - - 先物